

2014. 5. 18 (日) お田植え祭

前日の稲苗奉奠祭に引き続き、好天に恵まれる中、神様をご勧請申し上げる太鼓の音を合図にお田植え祭が執り行われました。

お田植え祭会場となった田んぼは、20年間も不耕起だった田んぼとはとても思えないほど美しいご神田として復活され、逆さ富士がきれいに映っていました。近隣の方も大勢見に来られていました。ご協力いただきまして有難うございました。



田植えは、稲の苗を田んぼに植え付ける実際の農作業であるとともに、重要な神事・豊作を祈る田の神の祭りでもありました。

昔から田植えの最初の日には、田の神をお迎えするために、装束をきた人たちが神様を拝み、笛や太鼓などのお囃子にのって、声を合わせて田植え歌を歌いながら、早乙女がそろって苗を植えていきました。

田植えのあと、早乙女が田植え踊りを踊ったりすることもあり、こういったお囃子

や田植え踊りが芸能化して「田楽（でんがく）」となり「猿楽（さるがく）」となり、「能」となり、田植えは日本の芸能のルーツといえるのです。

今回のお田植え祭にもアーティストの方々が参列され、田の神様や田植えをする人たちに美しい音色をプレゼントして下さいました(*^▽^*)



お田植え祭

2012 年 5 月 27 日(日) 山梨県富士吉田市大明見にて開催



平成 13 年より山梨県内で稲作を始めてから、今回で 12 年目の田植えとなりました。
NPO法人 地球と共に生きる会は、2000 年発会当初より、『生きることは食べることから』と、食の改善と確保に取り組み、日本の農業が危ういという現状をどうにかしたいと、全国各地での農作業ボランティアを続けてきました。

5 年前の平成 19 年より、全国のNPO地球会員の皆様に呼びかけをし、お田植え祭に参加させていただいており、今回で 6 回目になります。

色々な所でお田植え祭の祭事がありますが、NPO法人地球と共に生きる会では、神社での祭事だけでなく、みんなで実際に田んぼをやっていることを主としています。

今年でグループごとでの田植えは 5 回目になりました。

初めは何の農業経験もなかった方々が、5~6 年実際にさせていただいて、食の大切さ、農業の大切さを知り、みなさんすごく変わってきています。これが大切なのです。

最初は、全員参加型で、田植えも稲刈りも合同で行いました。

各グループ別の田んぼはあるものの、ほとんどの作業を農業生産法人(有)地球とNPOの会員の有志の方にボランティアで農作業のお手伝いをしてもらっていた状態でした。

いよいよ今年から、自分たちの手で一から稲作ができるようにという方がグループごとに田んぼを借り、草刈、肥料まき、あぜ作りなどに取り組み、どうしてもできない作業のみを農業生産法人に委託するまでに進展してきました。

また、稲作には参加したいけれど、遠方であったり、その他諸事情のため自分たちだけではどうしても田んぼを持つことができない方には、稲作を推進する農家(農業生産法人(有)地球)を援助していただき、農業生産法人(有)地球の田んぼでの作業の手伝いやその田んぼで収穫されたお米を購入することで、参加していただく形へと進んでいます。

NPOが消費者と生産者の架け橋となって、共に活動し始めてきてこの様になってきています。



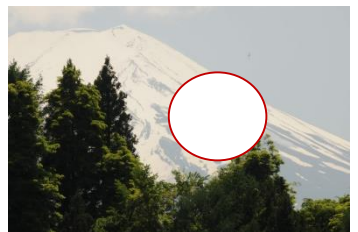
きっかけは、理事長が天皇家の稲を頂いたことからでした。

天皇陛下は人類が永久に幸せに暮らしていけるように、食べることに困らないようにと、毎年ご自身で米作りをされ、皇后陛下は着ることに困らないようにと、絹・養蚕をされておられます。

食の大切さや、食に感謝することでまた食をいただける、そういうことを忘れてしまっているの、米・食をいただいていることへの感謝の大切さを伝えていきたいのです。

ここ何年間かは、雨の中での田植えが続いていましたが、今年は 26 日の奉奠祭と 27 日のお田植え祭の両日とも、夏の日差しを思わせるほどの好天でした。

例年よりも寒い時期が続き、雪深かった富士山にも、田植えの合図である農鳥らしき雪形が現れました。



5 月 27 日午前 8 時 55 分
若者たちによる太鼓の音が
高らかに響き渡り、田の神
様にお出まじいただく合図と
なりました。



祭主よりのお田植え祭の開始ご報告に、参加者一同この日を迎えられた喜びに感激もひとしおの様子でした。

(この日の様子は YBS 放送のニュースと、富士五湖ケーブルテレビの番組で放映されました。)

お田植えの祭詞の言葉から、

「天照主日大御神様からいただいた稲を植え、ここから分けた稲作りの伝承があり、神様と人との約束がずっとありました。自然を司る神々様に感謝をする、神様と人との契約があり、それが神様から伝えられた太古からのお田植えの儀となる」ということをあらためて教えていただきました。

米作りは、大自然・天候気象に大きく左右されます。

だからこそ、日本の天皇家をはじめ、民衆にいたるまで、稲作をさせていただくすべての方々は、自然を司る神々様に感謝の意を捧げるお田植え祭をされ、稲を植えさせていただいてきたのです。

田植えは稲と大地のマグアイ、結婚式でもあり、人が仲人をし天・人・地が一つとなり、人が稲を育てて食にしている、この心を忘れてしまっているの、日本人にもう一度その大切さを伝えて、豊かな大地に蘇らせ、豊かな暮らしや生活へつなげていきたいという願いがあります。



担い手不足で休耕田となっていた大明見の田んぼを復活させ、村おこしを含め、元々日本人が行ってきた稲作をし続けることで、里山を守り自然を元に戻し、今では蛍の復活も見られるようになってきました。

祭事を希望される農家の方がいらっしゃれば、祭事をさせていただいて啓蒙していきます。

祭事という形だけでなく、日本人の元々の心、生き方、日本の伝統的文化を復活させ、世に広げようとしています。

今とても大切なことで、賛同者がどんどん増えています。

先日西桂町でもお田植え祭を行いました、200 名程の方が来られました。

今回も全国各地から約 300 名の方が集まっています。

各地でやり始め、啓蒙運動をしています。



地元をはじめ、全国より来賓の方がお越し下さいました。

祭事が終了し、来賓のみなさまの紹介、会長挨拶と行事が進められ、祭主によるお田植えに引き続き、早乙女さんの田植え、参加者全員での田植えが行われました。



一生懸命全国に声をかけて、全国から来られるその方々の地域の里山を、全国の里山を守ることになるので、それを山梨から発信させていきたいのです。

そのために、「オラが富士の大和撫子 I N E」を作って、全国に広げていきたいと思っています。ぜひみなさまに協力していただきたいのでお願い致します。

『オラが富士の大和撫子 I N E』



全国にお田植え祭の祭事がありますが、ここは生きたお田植え祭で、実際に食味まで変わってきています。

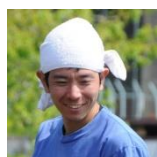
宮城県カブクリ沼でお田植え祭をさせていただいた際、地元の農家の方が「昔は水を入れる時、水神様のお祭りをした。じいちゃんの時にこんなお田植え祭をやっていた。こんな大切なことを忘れていた」とおっしゃっていました。



農家が目覚め、消費者もこのお田植え祭を通して思いを変え、「日本のお米を食べよう。日本の農業を守ろう」という消費者を増やしていきたいと思ひます。



日本人の米離れの現状への対策として、年配の方だけではなく、若者こそがお田植え祭に参列し、食に対しての感謝の大切さを知り、実際に田植えをすることで、日本の農業の大切さとすばらしさを実感していただいて、日本の農業を守っていただきたいと思います。



日新弘道館塾 活動実践報告 親子仲良く田植えをしました(*^_^*)



天候に恵まれたおかげで、予定より早く田植えが終了しました。

この日、稲を植えた方々は、その稲のお父さん・お母さんになります。

普段は、どうしても毎日通うことができませんので、農業生産法人の方に代理のお父さん・お母さんをお願いすることになりますが、ぜひ、一度でも多く、わが子の成長を見に来て、実際に手をかけ声をかけ、時には厳しく時にはやさしく、稲を励まし鍛えていただきたいと思います。